

学校教育目標	「今日も学校に来てよかった」と思える学校づくり	経営理念	学校・家庭・地域が協働し、共育する学校づくりを推進し、これからの時代をたくましく生き抜くための資質・能力を身に付けた児童を育成する。 ○児童が主体的に学び合い、「わかった。できた。よかった」を実感できる学校 ○家庭・地域と協働・共育する、夢と感動あふれる学校
--------	-------------------------	------	---

評価計画					自己評価				学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)		改善方策			
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	担当	達成値		評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策
								10月	2月					
確かな学力の定着(知)	1	基礎・基本の確実な定着と主体的・対話的で深い学びの実現	基礎・基本の確実な定着	少人数を生かした個別最適な学びの充実を図るとともに、「チャレンジタイム」の内容を精選し、計画的に実施する。	国語科・算数科における単元末テストの「知識・技能」の平均得点率80%以上の児童	80%	教務主任	国語科 68.5% 算数科 88.8%	国語科 68.5% 算数科 75.9%	国語科 37/54 85.0% 算数科 41/54 94.8%	国語科 2 算数科 3	B	○少人数を生かした個別最適な学びの充実に向けて最大限研究実践することを期待している。 ○漢字や言葉の定着など苦手克服の課題に取り組みで向き合う姿勢が大切。今後も続けて取り組んでほしい。 ○文章読解を増やすよい。 ○手書きのものの積み上げもしっかりと残して欲しい。 ○朝読は、好きな児童が多いのに、読書に取り組むことが苦手な児童がいるのは残念。月1回読みかせ以外に何か対策を。	○ことは朝会を継続して取り組み、意見、根拠、理由を明確にして語れるようにしていく。 ○タブレット/リル教材「ミライシード」では、字の形や書き順など学習の途中過程を把握することができる。低学年のうちからICTをうまく活用し、正しく理解できるようにしていく。 また、ミライシードの内容を、画に応じて配信していく。 ○教科書教材以外の文章を読み解く機会を設け(宿題・帯タイム)、新しい言葉や漢字にも触れさせるようにしていく。 ○できていない問題については、テスト直後に必ず復習を行い、再度同様の出題があった場合には、正答できるようにしていく。 ○毎日の小テストや既習の漢字を使って振り返りを書くこと、また詩の暗唱など言葉にこだわった取組を毎日の積み上げを継続していく。 ○前期、後期に漢字検定を行っている。これまでと同様、100点になるまでやり切らせる。
			◎主体的・対話的で深い学びの実現	児童が主体的に学ぶ課題発見・解決学習を充実させるとともに、言葉による見方・考え方を働かせる三角ロジックを取り入れた学習の充実を図る。	国語科単元末テスト「読むこと」の平均得点率80%以上の児童	80%	研究主任	83.30%	90.7%	113.30%	4	中間評価の結果を受けて、チャレンジタイムや授業時間を活用して基礎・基本の問題に取り組み時間を確保したことが、目標達成のさらなる向上につながった。 学年の実態に応じて、学習した内容を日常生活の中の仕事となげで活用した問題に取り組みなど、より深く理解したのではないかと。 達成できた児童の中でも、100%近く得点できた児童と、80%の児童があり、定着度には差がある。「知識及び技能」の定着があまりできていない児童の結果が「読むこと」の得点率の結果と比割してよくない。	A	○対話的学習をもっと充実させてほしい。 ○みんなと一緒にのびていこうという雰囲気大事。 ○深い学びは基礎学力を駆使して考えることが重要。直感に頼らず思考プロセスを明確にする必要あり。
豊かな心の育成(徳)	2	心豊かな人間性を培う	◎自律心の醸成	「き・た・に・い・ま・ん」の指導を継続して行うとともに、「に・い・ま・ん」に笑顔であいさつの徹底を図る。	アンケートによる肯定的評価	90%	生徒指導担当	児童 92.7% 保護者 92.6%	児童 96% 保護者 89%	児童 107% 保護者 99%	児童4 保護者 3	A	○やらされているあいさつではなく自分から進んであいさつしようとする心を育てることを継続してほしい。 ○あいさつは大切、いつでもどこでもできるようにしなければ本物。 ○あいさつは対人関係の基本。気持ちの良いあいさつができるように今後も続けてほしい。	○相手の目を見て、大きな声であいさつができるように児童会役員中心に進めていく。来年度も、児童会役員による評価、表彰を全校集会等でしていく。そのことにより全体に意識がいきわたると考える。 ○引き続き、学期の初めに、「気持ちの良い挨拶とはどんな挨拶か」を全校で考える機会を設け、一人一人の意識づけを行う。
			体験活動の充実	地域学習(ふるさと木谷)を通して、地域貢献や地域の良さを伝える取組を推進する。	アンケートによる肯定的評価	90%	生活部	96%	96%	107%	4	学年ごとに地域の方々と共に木谷ならではの体験活動を行い、地域の良さを感じることができた。コミュニケーションスキルにより「木谷の風」を地域学習を実施する毎に発信し、地域の良さを発信している。	A	○地域でも好評である。 ○「学校だより」「木谷の風」もすばらしい。 ○産学で教わっていることと実社会とのつながりを実感できるように企画されている点が評価できる。
健やかな体の育成(体)	3	生活リズムを整え、健康な体づくりを進める	体力の向上	外遊びの奨励、体育科の授業・体育的行事を通して体力づくりに取り組む。	長座体前屈の向上率	105%	体育主任	12月に計測予定	112%	107%	4	A	○「元気タイム」良い。柔軟体操で怪我の予防になる。 ○健康・体力に自信をもつことは自己肯定感をもつことにつながる。 ○タブレットやスマホの使用と体力低下の関係もある。 ○取組はすばらしい。伸びにくい子への適切な助言を。	○引き続き、元気タイムやびのび遊園での取り組みを行い柔軟性の向上に取り組む。 ○伸び率が一目でわかるよう、びのびカードに折れ線グラフを追加して、自分で月ごとの数値を記録していく。
			◎健康・安全な生活習慣や態度の確立	生活振り返り週間を設定し、基本的な生活習慣の定着を図る。	生活振り返りアンケートによる「睡眠時間の確保」の肯定的評価	前期 80% 後期 90%	保健主事	87.1%	93.80%	104.2%	4	各学年の実態に合わせ、睡眠の大切さについての保健指導を行い、懇談会では家庭での様子について話し合う機会を設けた。生活ふりかえり期間中は、毎日生活ふりかえりカードを提出させ、担任が実態を確認し、評価を行った。その結果、目標達成に向けて一人一人が意欲的に行動し、目標を達成することができた。生活振り返り週間に、結果を示した数値、また円グラフを各学年に伝え、前回の結果と比べたり、次の目標を考えたりさせたことで、意欲の向上につながった。	A	○「運動・食事・睡眠」は学習効果につながるが理解し、実行できたのか。 ○タブレットやスマホの使用にかかわる視力低下が気になる。 ○睡眠と視力維持は、今後も継続課題で取り組んでほしい。
信頼される学校	4	保護者や地域とともにある学校づくりをめざす	◎コミュニティ・スクールの推進	地域・保護者と連携した教育活動を進めるとともに、積極的な情報発信を行う。	保護者アンケートによる「学校は教育方針・子供たちの様子等を分かりやすく伝えている」の肯定的評価	90%	教頭	96%	89%	98.8%	3	A	○信頼される学校づくりのために努力されている。今後も連携・相互信頼を大切にしたい。 ○前期より下がってしまったのは何か原因があるはず。突き詰めて考えてほしい。地域に出ないと思えてこないことがあるが無理のないように。	○引き続き、学級で気になることがあれば、すぐに保護者との連携を、学校との信頼関係を築いていく。 ○学校だより等で、できる限り早めに学校の取組をお知らせしたり、学年だよりにおいても積極的に、情報を発信していく。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。
重点目標は◎で表示する。

■自己評価
4...目標を上回って達成 3...目標どおりに達成
2...目標をやや下回って達成 1...目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価(学校運営協議会による評価)
A...とても適切である B...概ね適切である
C...あまり適切でない D...全く適切でない